



切り絵 『白虎』 比企善彦 作



茨木神社社報

発行所

茨木神社社務所
茨木市元町4-3
072(622)2346
[https://www.
ibarakijinja.or.jp/](https://www.ibarakijinja.or.jp/)

「本殿上棟祭」

去る十一月十二日、上棟祭を古式に則り斎行いたしました。上棟とは、建築物の柱や梁が組み立てられた上に棟木を据えることを指します。その折に斎行されるのが上棟祭であり、木々を司る神々をお招きし、いつまでも家屋が無事であるようにと願う神事です。

木々は私達の生活にとって欠かすことの出来ないもので、あらゆるところに使われてきました。欧米の建物が石やレンガによるのに対して、日本では古代より出雲大社や東大寺といった巨大建造物をはじめ、建物はすべて木によって建てられてきました。特に神社の社殿には木々の中でも「檜」が使われました。それは強度耐久性に優れるとともに木肌が美しく光沢があるからであり、樹木の中の樹木とも言われます。

私達日本人は、古代より木々の恩恵を受けてきました。そして今日、その証が神社の社殿であり、みだりに変化を与えないところに尊さがあります。二十年毎の遷宮で知られる伊勢の神宮では、社殿は全て檜材で造営されます。明治になって最初の遷宮にあたって、政府は財政面から当時普及していたコンクリートを用いる案を提案しましたが、明治天皇様は先人達の心を受け継ぐためにも「古制遵守」を諭され、決してお認めにはなられませんでした。

上棟祭を通じて、日本が古代より受け伝えてきた「木の文化」を再認識したいものです。

新型コロナウイルスの
当社の対応

・「大祓・輪くぐり神事」並び
に「人形祓神事」

例年六月三十日午後二時から多くの氏子・崇敬者のご参列のもと齋行しております。「大祓・輪くぐり神事」並びに「人形祓神事」は、密を避けるため、午前九時三十分より総代のみ参列のもと齋行いたしました。その後「茅の輪」を終日設置いたしました。多くの方々が時間を分散し、密を避けながら「茅の輪」をくぐり、これまでのご守護を感謝し、残り半年の更なる幸せを祈られました。



宮司によるくぐり初め

・夏祭

例年七月十三日・十四日に齋行しております夏祭については、今年は大神様の御分霊をお遷し申し上げた神輿をトラックに奉安して、四か所ある御旅所にて神事のみを齋行するという形式で行い、氏子地域への神輿・太鼓の巡幸・巡行は中止となりました。

まず十四日午前九時三十分より総代・祭礼委員長並びに関係者のご参列のもと本殿祭を齋行し、このような形式となったことの奉告と、コロナ禍の一日も早い終息を併せて大神様に祈願奏上申し上げます。

その後、四か所の御旅所を巡り、御旅所祭を齋行しました。



御旅所での神事

・今後の神事について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、残念ながら以下のよう祭事を変更させていただきます。

◇初詣

昨年に引き続き、今年も分散参拝にご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。そのため、新年の授与品の頒布を十二月二十五日より開始いたします。

当社では本殿前に混雑緩和のため参拝者の列を蛇行させる対策を実施いたします。また各授与所に飛沫防止シートを設置し、各所に消毒液の設置やマスク未着用者には無料配布などを行います。

◇十日戎

令和三年は日程を延ばすという異例の形で齋行いたしました。令和四年は通常通り一月九日～一月十一日の三日間齋行いたします。分散参拝にご協力いただき、会社関係の皆様は出来る限り平日のご参拝をお願い申し上げます。また、例年実施しております境内での餅まきは、今年も昨年に引き続き中止いたします。

御本殿創建四百年記念
「令和の大造営」について

・工事の進捗状況

現在、御本殿創建四百年目となる令和四年秋の佳節に向けて、令和二年六月より「令和の大造営」の工事が進められています。

令和二年十一月十七日に本殿地鎮祭齋行後、工事が本格的に開始されました。基礎工事・石垣設置と進み、昨年七月には、社殿建設のための素屋根が組み立てられ、御用材・部材の運び込みが行われました。そして八月、まず解体・補修された本殿（大神様が御鎮座なされる建物）の柱が据え付けられました。旧本殿の御用材は補強加工し、再び御本殿の柱として用います。先人の氏神さまへの篤い崇敬の念が未来へと受け継がれます。

続いて、幣殿（へいでん・神職が祝詞を奏上する建物）と拝殿（はいでん・参拝者のご祈禱を受ける建物）の柱が建てられるとともに、梁と桁が組まれました。

造営工事の間、ご参拝・ご祈禱等は仮殿にて通常通り齋行いたしております。ご参拝の皆様には何

かご不便をお掛けいたしますが、ご理解・ご協力をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

・本殿上棟祭

十一月十二日秋晴れの下、四百年記念事業委員会澤田義友委員長をはじめとする事業委員の方々、施工業者及び設計者、そして神社関係団体の代表の方々ご参列のもと、本殿上棟祭を斎行いたしました。

当日午前十一時より本殿建設用地に設置した祭壇において、修祓・祝詞奏上などの諸神事が進行する中、古式に則り「上棟の儀」が行われました。



曳網の儀



槌打ちの儀

上棟の儀においては、まず「清祓の儀」において新御本殿の棟木をお清めした後、「曳綱（ひきづな）の儀」において参列者全員で綱を持ち、棟木を棟に曳き上げる所作を行いました。次に工匠らによって棟木を棟に打ち固める所作



散餅・散銭の儀



棟札奉祀の儀

を行う「槌打ちの儀」、そして餅銭を散じて災禍を除く「散餅・散銭の儀」を執り行いました。続いて本造営に関する記録を記した「棟札」を御本殿に奉安する「棟札奉祀の儀」が行われ、宮司から工匠長に棟札が授けられ、最後に参列者が玉串拝礼し、約一時間にわたる神事を終えました。

・ご奉賛への御礼

令和元年十月より、氏子・崇敬者の皆様に御本殿創建四百年記念事業「令和の大造営」へのご奉賛をお願い申し上げたところ、数多くの方々から御篤志を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。今後とも、事業完遂のため格別の

ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

神社歳時記

・長谷川あつこ様による琴の奉納演奏

七月二十三日、茨木市在住の琴奏者であられる長谷川あつこ様により琴の奉納演奏が行われました。そのご縁により七五三詣で賑わう十一月の三日間、仮本殿東側の末社覆屋において琴の演奏をご奉仕いただきました。七五三詣でお越しのお子様にも喜んでもらえるような親しみのある曲を中心に演奏され、参拝のお子様もとても喜んでおられました。





開催期間中、多くの方がお越しになり風鈴の音を楽しみながら人々の願いを感じておられました。

●茨木青年会議所主催「願いを込めた風鈴一、〇〇〇個を茨木神社に飾ろう！」及び「ヒト×モノ×ミライ市」が開催されました。
十一月二十五日～二十八日、南鳥居前に多くの方々の願いが込められた風鈴が飾られました。これはコロナ禍の厳しい環境の中、多くの市民の皆様の願いを眺めつつ風鈴の音を聴くという、「訪れるだけで明るい気持ちになる場所」を創りたいという主催者の想いが込められています。



また十一月二十八日には、境内にて「ヒト×モノ×ミライ市」が開催されました。茨木にゆかりのある「ヒト」や「モノ」が集まり、お互いに刺激し合うことで新たな「ミライ」を創り出すことを目的とした行事です。
当日は秋晴れの下、多くの方々にご来場いただき、茨木のまちの魅力を発信する良い一日となりました。幅広い年齢の方々が茨木出身のミュージシャンの音楽に耳を傾けながら、ふるさとならではの出店を楽しんでおられました。

これからの行事予定

- ◆ 越年祭 十二月三十一日
- ◆ 歳旦祭 一月一日午前十時齋行
- ◆ 十日戎祭 一月九日～十一日
- ◆ 御火焚(とんど) 祈禱木奉焼祭 一月十五日
- ◆ 節分祭 鎮魂星祭 二月三日
- ◆ 初午祭 二月十日
- ◆ 紀元祭 二月十一日
- ◆ 人形奉焼祭 四月八日
- ◆ 春祭(祈年祭) 奉賛会厄除安全祈願祭 四月十八日
- ◆ 大祓・茅の輪くぐり神事 六月三十日

初詣は、混雑を避け、分散してご参拝下さい。その際、マスクの着用と控えめな会話をお願い申し上げます。

茨木神社公式ホームページ・公式Instagramをぜひご覧下さい。

ホームページでは御由緒や境内案内をはじめ、参拝の方々へのお知らせや主要祭事の斎行報告など、皆様が必要とされておられる情報を迅速にお伝えしております。

またInstagramでは、主要祭事は勿論のこと、日常の神社の様子など日々の風景をお伝えしております。下記のURLもしくはQRコードより、どうぞご覧下さい。

ホームページ <https://www.ibarakijinja.or.jp>

茨木神社

Instagram



ibarakijinja.official

